

# さいわいデイだより 10月号



社会福祉法人 川崎市幸区社会福祉協議会さいわいデイサービスセンター  
【指定介護保険事業所番号: 1475100879】  
〒212-0023 川崎市幸区戸手本町 1-11-5 川崎市さいわい健康福祉プラザ内  
電話: 044-541-8245 FAX: 044-556-5577  
【編集人 土谷 憲司】

**早いもので、もう10月です！  
年末まで100日をきりました。 本当に早いですよね…**

**けたたましく鳴いていたセミの声も、  
もの悲しさを感じるほどの秋の虫の声と変わり…  
スーパーの店頭のスイカが姿を消し、今は柿や栗が並んでいます。  
様々な場面で季節の移り変わり、秋を感じませんか？**



10月 1日といえば、衣替え。

スーツや制服のように夏服から冬服に変わる程度であればいいのですが、持っている服の数と使用頻度、いかがでしょうか？

懐かしい思い出の服、いつか着る予定でずっと着ていない服、一度も袖を通さない服は意外と多いのに、毎朝、着ていく服に悩む現実。

タンスの肥やしばかり…わかっていても、整理するのも面倒。

秋の夜長の過ごし方に服の整理や部屋の片づけ… しないですよ～



そして、そして、秋といえば「味覚の秋」

今年は風水害で九州、東北、北海道などの農作物が大ダメージを受けており、いつになく野菜も品薄で高騰しています。そこで、疑問に思ったのですが、

「秋ナスは嫁に食わすな」「秋カマスは嫁に食わすな」「秋サバは～」など旬の時期の一番美味しい食べ物を嫁に食わすなという ことわざ 諺… 多いですよ。

これらは、封建的な家族制度の中で生まれ「憎らしい嫁にはもったいない！」という嫁イビリ的な意味で使われていますが、実は諸説あり「ナスは身体が冷えるから…」「ナスは種が少ないので子種を心配して…」「サバは痛みが早く当たると心配」など、いい訳にも聞こえる説もあるようです。 ←ひねくれ者なので(笑)

ちなみに、鎌倉時代の和歌集「夫木和歌抄」の「秋なすび ふぼくわかしゅう 若酒 わささ (新酒)の粕につきまぜて夜目(ネズミ)にはくれじ 棚に置くとも」が語源と言われており、「酒粕に漬けた秋ナスを美味しくなるまで棚に置いておくのはいいが、ネズミに食べられないように注意!」という意味で、夜目=ネズミ=嫁の隠語説が多いとか。

美味しいものを食べて「美味しい!」「本当に美味しいね♪」こんな会話を普通にできる環境や季節の味覚を口にできる幸せに感謝!!

何気ない普段の出来事に小さな幸せを感じることができるのは、デイの利用者さんから学んだ心だと思っています。人としての学びは永遠ですね。



和やかで 楽しい時間を過ごしていただけるよう 工夫しています。

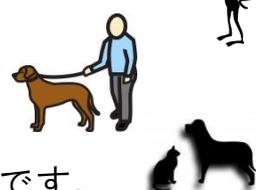
ディスタップの  
つぶやき

# 災害救助の中から見えてきたこと。驚きの事実。



台風が連続して発生し、甚大な被害が報告されています。

災害時の行方不明者の捜索に活躍する災害救助犬。



東日本大震災の際の救助犬の活動の話を聞き、驚いたのですが…被災者を発見した際、その生死によって明らかに反応が異なるそうです。冷たくなった被災者の発見が増えると、救助隊同様に救助犬も目に見えるほどショックを受け、救助活動への出動を拒んだり、精神状態を壊し「うつ状態」になる犬もいると知り、想像もしていなかった現実に関心が苦しくなりました。

盲導犬や警察犬のように専門的な訓練を受け「使役犬」として、またペットとして潤いや癒し…安らぎをもたらし、私たちの生活を支える動物たち。

「ドリームボックス」何を指す言葉かご存知でしょうか？ 夢の箱。。。イメージとは真逆の犬猫の殺処分室、ガス室のことです。全国で毎日1600匹の犬や猫が販売され、700匹の尊い犬の命が奪われます。

2002年、熊本市動物愛護センターの「殺処分ゼロ」目標の活動から始まり、川崎市動物愛護センターでは2013年から犬の処分ゼロを継続しています。神奈川県動物愛護センターでは2013年に犬の処分ゼロ、2014年から犬・猫共に処分ゼロを達成、継続中！（ただ、犬猫以外の小動物はまだゼロではないそうですが…）自治体、NPO、ボランティアをはじめ、たくさんの方々が協力して成し遂げた結果。命に対する活動。 **神奈川県、川崎市の自慢だと思いませんか？**

知らなかった昨日。現実にふれた今日。優しさの輪が広がりますように♪



## 《9月 敬老会の風景》



齋藤先生率いる 映像朗読隊♪



御幸中3年生の大迫力の よさこい♡



美しい音色で魅了する  
マンドリン☆アンサンブル

## さいわいデイサービスセンターのフキ自慢《利用者さん》

「何か手伝うことある？」「家でポーっとしていても仕方ないから広告でゴミ箱100個作ったから使って〜」「どれどれ？」「大丈夫だよ…」「頑張ってる〜！」

周囲を見渡し、利用者さん同士、そして職員にも声を掛けてくださいます。いつの間にか会話が広がり、声を掛け合い、助け合い、本当に温かい穏やかな風景です。そして「ありがとう」「お世話様」の言葉と笑顔が飛び交い、実習生や職員に対しても、人生の先輩として素敵な言葉…利用者さん みなさんもさいわいデイの自慢なんです。

【問い合わせ】 さいわいデイサービスセンター 541-8245 (月～金 8:30～17:30)